



「正解」

9月飯舘B班

佐藤桃華	遠藤亮汰
粥川未爽	平野柊都
	藤田宇響

目次

1. 測定結果
2. 私たちの疑問
3. ここまでを通して
4. 私たちの向き合い方





1. 測定結果



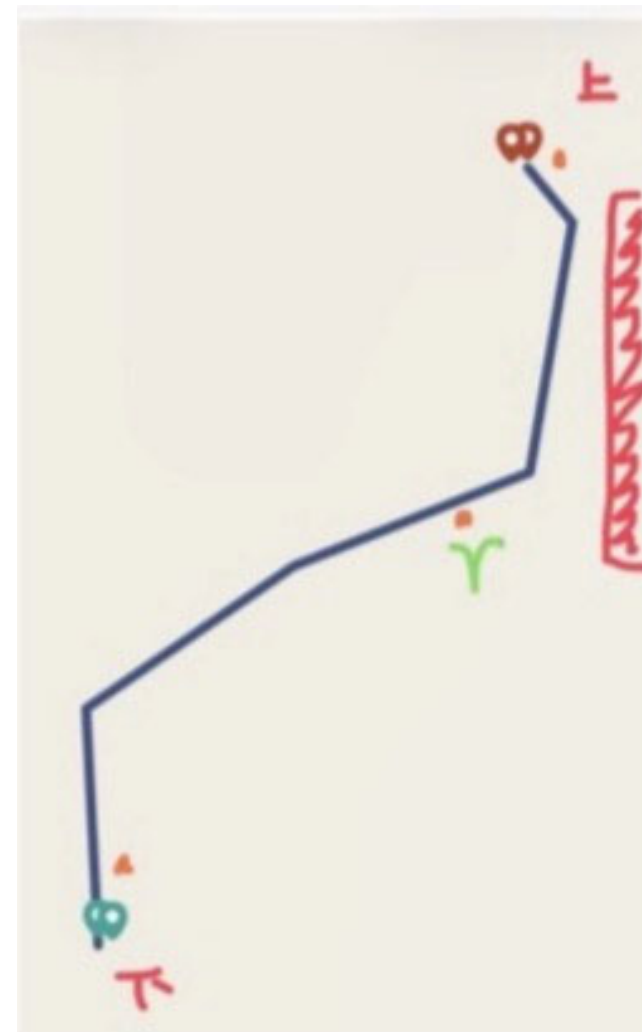
1. 測定結果

●なぜ、市澤さん宅の裏の沢にしたのか

→仮説：沢の上流と下流では、土壌が堆積する下流の方が放射濃度が高い

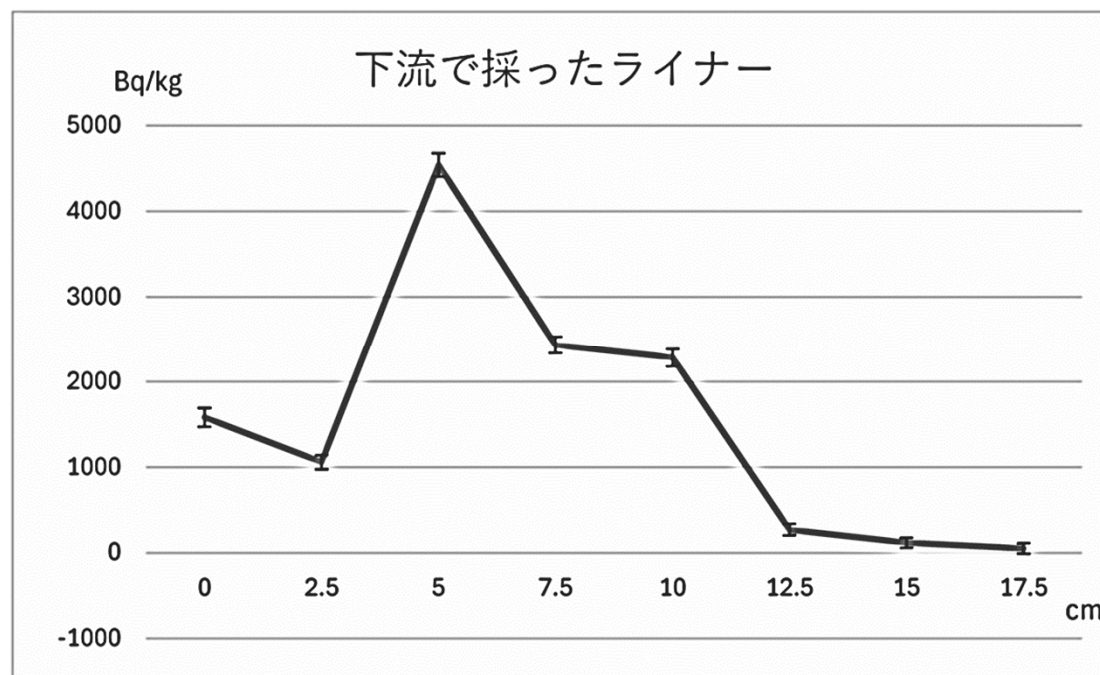
1. 測定結果

結果	5cm土壤
上流域	1116.94 ± 83.08
中流域	1754.14 ± 60.23
下流域	536.95 ± 45.12



1. 測定と結果

●30cmライナー（下流域）



1. 測定と結果

● 考察

- ・中流域の採取場所が堆積しやすい場所だった
- ・発生時の土壌に現在の土壌が上流域から堆積している
- ・水による遮蔽の影響も考えられるが、水量が測定に影響を及ぼす程度ではない



2. 私たちの疑問

2. 私たちの疑問

疑問：「更地や荒地に人は戻ってくるのだろうか」

【行政・東電】

- ・責任を果たす＝もともと住んでいた住民が帰ってくること？
＝町が活性化すること？

→どちらかというと、「復旧」の意味が強い

【事故後に避難した住民】

- ・代々受け継がれてきた大切な土地
- ・復興のための苦渋の決断

「復旧」と「復興」

復旧

壊れたり傷んだりしたものを、もとの状態に戻すこと。

例) 壊れた建物を直す

復興

単に元通りにするのではなく、
以前よりも活気のある状態や
新しい地域や社会を作り上げ
ること。

「復興」に対するすれ違い

- 行政・東電側：元に戻すことが復興

- ・土地や地域を元に戻し、住民が帰還することが復興の重要な要素の一つ

- 住民：手放すことが復興

- ・場合によっては、土地を手放して新しい生活を始めることも、その人にとっての復興になり得る

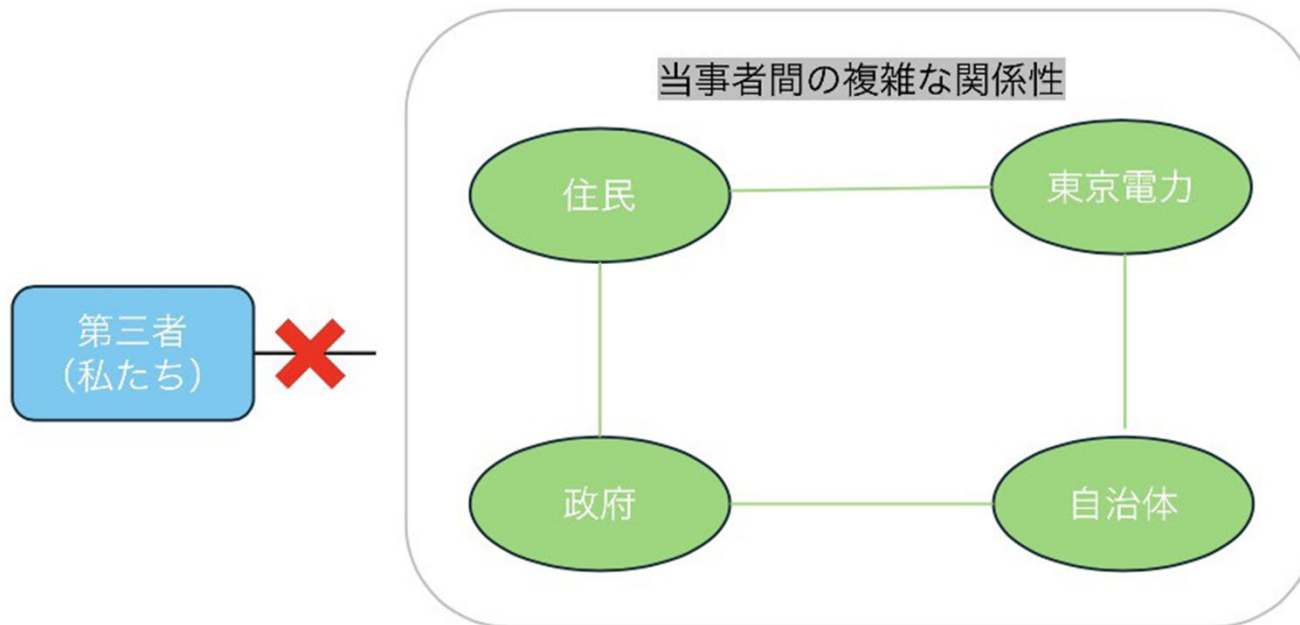


3. ここまでを通して

3.ここまでを通して

疑問：「我々の立場から物申していい問題なのか？」

●二者間の問題（行政・東電と住民）



3.ここまでを通して

疑問：「我々の立場から物申していい問題なのか？」

- 二者間の問題（行政・東電と住民）

- ・帰ってくることが**正解**だと決めつけることはできない
- ・**突き放したくもない**

➡研修を通して**他人事ではない**という感情

3.ここまでを通して

○帰ってくることが**正解**だと決めつけることは出来ない

- ・行政・東電（復興を目指す行政・復旧する東電）
どちらも元居た住民は戻ってきてほしい

- ・住民（帰ってくことは復興につながる・復旧する意味にもなる）
元の土地に帰ってきたとしても...

→ **非常に複雑**

一理に決めつけることができない

3.ここまでを通して

○突き放したくない

- ・二者間の問題だから…

現地で出会った人を突き放すのは嫌

- ・複雑な問題だから…

複雑だからこそ私たちも一緒に考えていくべき

➡ どう向き合っていくかを考える



4. 私たちの向き合い方

4. 私たちの向き合い方

当事者の考え方を尊重する



当事者の考えを尊重するために求められること

- 変わり続ける状況を追う姿勢
- 多角的に原発事故をとらえる姿勢
- あくまでも中立、第三者として物事を知る姿勢

当事者の考えを尊重する

第三者として物事を知る姿勢

原発事故は住民、政府、東電、自治体が複雑に

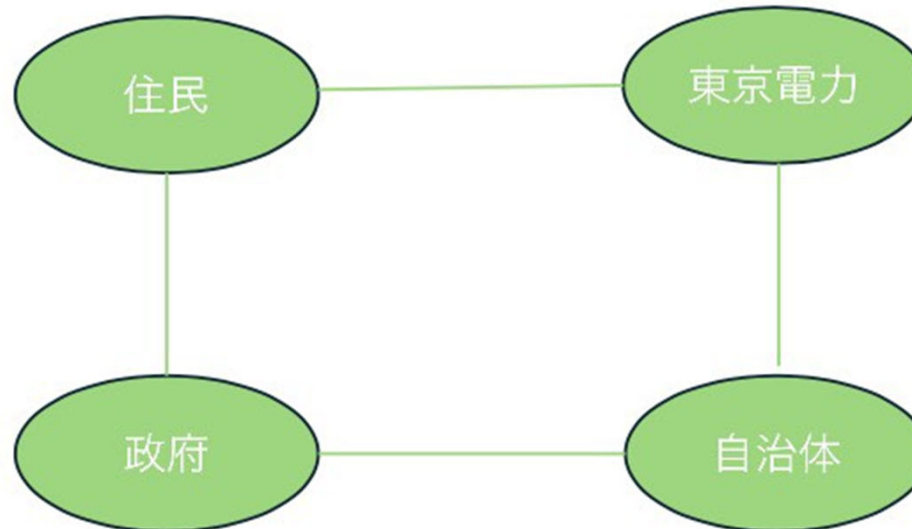
絡み合った問題であり、第三者が介入することで容

易に解決する問題ではない

第三者
(私たち)



当事者間の複雑な関係性



当事者の考えを尊重する

第三者として物事を知る姿勢

原発事故は住民、政府、東電、自治体が複雑に絡み合った問題であり、第三者が介入することで容易に解決する問題ではない

→ 答えが出ない問題である理由を探る

当事者の考えを尊重する

●行動の3ステップ

STEP 01

知る

STEP 02

深める

STEP 03

伝える

当事者の考えを尊重する



STEP 01

知る

- ・当事者それぞれの「考え・想い」に耳を傾ける
- ・福島県全体、東北の歴史や文化的背景を深く学ぶ
- ・刻一刻と変わり続ける現場の最新状況を追う

当事者の考えを尊重する

STEP 02

深める

- ・得られた情報をもとに自ら考え、思考力を養う。そのような人材を育成する
- ・考えを深めることで新たな情報へのアンテナを伸ばすきっかけに
- ・多角的な視点から物事を捉え直す

当事者の考えを尊重する

STEP 03

伝える

- ・ 深めた自分の考えや学んだ事実を周囲に伝えていく
- ・ 伝えることで更なる気づきを得ることにもつながる
- ・ 次の「知る」へつながる持続的なサイクルを作る